

## 「ぶらさがり幼虫」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



先日山荘の庭で、幼虫が浮かんでいるのを発見した。もちろん、翅のない幼虫は地球の重力には逆らえないので、何かにぶら下がっているのだ。どうやら、モミジの木の子から、細い糸でぶら下がっているようだ。

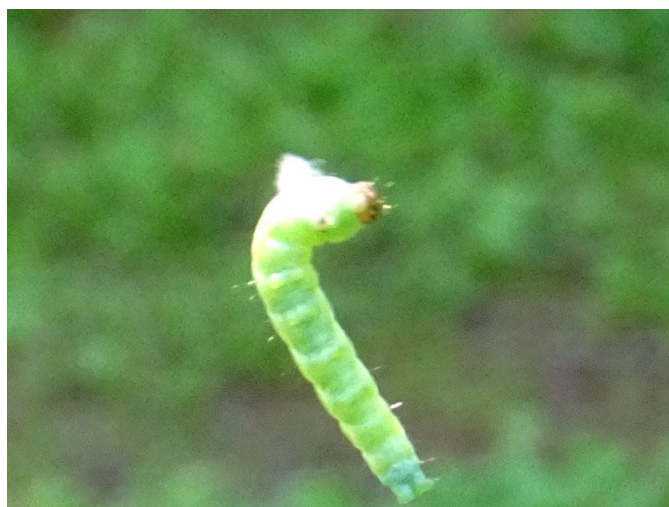


昆虫の幼虫は、毒をもつものもいるが、通常は積極的な攻撃手段を持たない。鳥やハチなどの天敵に襲われそうになると、逃げる以外に身を守る手段はない。しかし幼虫の進む速さはカタツムリ並みで、とても逃げおおせるものではない。高速で逃げられる方法は、重力を利用した「落下」以外にはないのである。

天敵に襲われそうになると、咄嗟に自ら枝から落下するのである。しかし、地面に落ちたら最後。アリの大群やスズメの格好の餌食になってしまう。そこで、枝に戻れるように、自ら急いで糸を吐いて、それにぶ

ら下がるといふ忍術を使うのだ。

私はちょうど落下する一瞬を見たことがあるが、体長の 20 倍もありそうな高さを一瞬で落下していた。その一瞬で 1 メートル以上の糸を吐いて、それにつかまっているのだから、驚異的な能力である。



幼虫は体をくねらせながら、糸をたぐり寄せるように、一生懸命に上ってゆく。しかし、肝心の糸がまったく見えない。私は近視の眼鏡をはずして、近くで目を凝らして見たが、肉眼では糸は見えなかった。写真には写るだろうと思って試してみたが、写真にも何も写っていなかった。いくら幼虫が軽いとはいえ、幼虫はジタバタしているし、この日は風も吹いて、幼虫は振り子のように揺れていた。驚くべき強靱な糸である。

私はしばらくその様子を観察していたが、糸のある位置を推定して指とり、「見えない糸」を枝に近い位置にかけてやった。子どもの頃にも同じことをした。



残念ながら、何の幼虫かはわからなかった。シャクガの幼虫(シャクトリ虫)にも見えるし、セセリチョウ科の幼虫にも見える。ともあれ、その後自力で枝に戻り「命拾いしたわ」と、枝の上を去っていった。